

IVUS カテの操作について。IVUS カテのフラッシュは必ず Y-コネクターに通す直前に行うこと。セットアップ時にフラッシュし、そのまま暫くしておくことと air の混入することがあり、冠動脈内での観察を開始してから air に気付きフラッシュすると air embolism を起こす可能性がある。その為に必ず Y-コネクターに通す直前に再度 lumen をフラッシュする必要がある。また、IVUS 観察時に問題となる点として NURD が上げられる。これは回転式の IVUS に限られた問題であるが発生した場合には手許の IVUS の屈曲を直すなどで対応できることがある。基本的な IVUS 像であるが画面の中心に IVUS カテがありその横には必ずワイヤーが見えるはずである (IVUS カテの横に小さい高エコー像)。実際の病変であるが高輝度の後ろに shadow を引く病変は石灰化病変である可能性が高く、逆に高度の石灰化を伴わないものの病変内部に低エコー領域を認め、その後方にエコー減衰を呈する病変は不安定プラークの可能性があり、病変拡張による末梢塞栓の可能性を念頭に置いて手技を行うべきである。また、内膜に亀裂を認め内膜後方に血流を認めるようであれば冠動脈解離と判断する (場合によっては冠動脈内血腫)。Stent 留置に伴っては観察 point としては stent の拡張具合、stent の malapposition の有無は勿論、stent 留置後 angio 上ははっきりした解離がなくても stent の edge に解離が存在している可能性がありこの点も含めて観察が必要である。